

平成 29 年度 第 2 回千歳市総合教育会議 議事録

▼日 時：平成 29 年 12 月 5 日（木）15：30～16：55

▼会 場：千歳市役所議会棟 2 階大会議室

▼出席者

(構成員) 市長	山口 幸太郎
教育長	宮崎 肇
教育長職務代理者	佐々木 義朗
教育委員	吉村 恭子
教育委員	荒井 由紀恵
教育委員	橋場 正人
(事務局) 企画部長	千葉 英二
企画部次長	磯崎 徹
企画課長	林 伸一
企画課企画調整係長	小椋 雄二
企画課企画調整係主任	伊藤 洋明
(教育部) 教育部長	島倉 弘行
教育部次長	澤田 徹
学校指導室長	加賀谷 隆
企画総務課長	米山 伸哉
学校教育課長	渡邊 誠司
青少年課長	丸岡 祐一郎
学校指導課長	佐藤 貢
企画総務課総務係長	田中 稔大

▼内 容

○千葉企画部長

本日は、お忙しい中、また足元の悪い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

ただいまから、平成 29 年度第 2 回千歳市総合教育会議を開催させていただきます。はじめに、山口市長からあいさつをお願いいたします。

○山口市長

本日は、大変お忙しい中、また大雪の中お集まりいただき、ありがとうございます。

本会議は、今年度 2 回目、通算で 6 回目の開催となりました。今回からは、吉村委員を迎え、新たな体制で進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○千葉企画部長

ここからは、議長である山口市長が進行をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○山口市長

本日は、お手元の資料のとおり3件を議題とし、これにつきまして、事務局から説明をいただき、それぞれの議題について意見交換をしていきたいと思っております。

はじめに、議題の1点目、「平成29年度全国学力・学習状況調査」の結果について、事務局から説明をお願いいたします。

○加賀谷学校指導室長

(「平成29年度全国学力・学習状況調査の結果概要(資料1)」について説明。)

○山口市長

今の説明の中でご意見等があれば、お願いいたします。

○佐々木教育長職務代理者

各学校における努力の結果が出ていると感じています。加えて、教育委員会の取組の成果もあるのかなと思っており、特に、小学校に配置している学習支援員の効果が非常に大きいのではないかと思います。算数の成績上昇は、学習支援員による習熟度別の少人数指導が、成果として表れたのではないかと思います。

○山口市長

近年、集中的にICT機器を整備し、また学習支援員も多く配置しています。

一方で、図書の整備も進めていますが、結果の中にあつた、「読む力が弱い」という部分については、読書と関係がありますか。

○加賀谷学校指導室長

もちろん、読書活動とも関係あります。また、ただ読むというより、いくつかの資料から必要な情報を自分が選択し、まとめる読み方をするということについても、指導をしていかなければならないと考えています。本や活字に親しむということと、情報を取りまとめていくことの、両方を身につけていくことが必要だと思います。

○吉村委員

テストの点数を1点でも上げるということは、すごく大変なことです。

先生方は、成績上位の子を伸ばしたい一方で、授業ではある程度中間のレベルで行うのですが、そうすると成績下位の子は置いていかれてしまう場合が多く、一度つまずくと、なかなか追いつくのが難しくなります。

このような中で、学習支援員の配置は、すごく効果があつたと思います。中学校も含め、知識を得るだけの学習ではなく、得た知識を活用できる学習ができるよう、指導方法の工夫をする必要があると思います。

その一方で、ただ学習支援員を増やせば良いということではなく、グループ活動など、学校の中での学習形態の工夫が求められてくると思います。

○山口市長

私も一度拝見させていただきましたが、学習支援員と子どもたちが楽しそうに勉強をし

ているという雰囲気を感じました。その一方で、拒否反応というのではないのでしょうか。

○加賀谷学校指導室長

少人数の中では、むしろ安心して自分の意見が言えるようになったり、あるいは、わからないところを素直に「わからない」と聞き返すことができたりしています。少人数グループでの授業を受けることについて、周りがからかっているというような声も聞かれないとのことでした。

○橋場委員

学力が上がったのは、まず、先生方の努力があったのではないかと思います。また、先ほどのご説明にもありましたが、ICT 機器整備の効果も大きかったのではないかと思います。去年、私の母校の授業を見に行ったのですが、とても見やすく、わかりやすいですし、ICT 機器を使うことにより、子どもの関心も引きやすいのかなと感じています。

また、千歳市 PTA 連合会（以下「市P連」）による「千歳市家庭生活宣言」を継続していることにより、勉強に対する親の意識が上がったのではないかと思います。ということも感じております。

○山口市長

「早寝早起き朝ごはん」については、定着してきているのではないかと思います。一方、ゲームやテレビの時間が多いという部分については改善されませんでした。これについては、市P連でも改善に向けて取り組んでいただいているところであるので、少し成果が出るまで見守りたいと思います。

この活動はこれからどのように進められる予定でしょうか。

○荒井委員

千歳市家庭生活宣言推進委員会を設置しています。その中で、3月には講師の方を招いたフォーラムを実施する予定で、各学校から5名以上のPTA役員に参加していただけるよう呼びかけています。まずは、役員の方々に活動を認知してもらい、それを各学校に持ち帰り、保護者に呼びかけていただくことで、全市的に保護者が一丸となって、学力向上に向けて取り組んでいきたいと考えております。

○宮崎教育長

市P連と教育委員会との協働事業である家庭生活宣言については、もう少し具体的な共通ルールを作ることができないか、検討しています。そして何よりも、児童・生徒や保護者への普及啓発が大切であると考えています。現在、これらをどう進めるかという議論を進めています。

○山口市長

そういった取組等も含めて、あらゆる機会に保護者や関係する方々に、取組を広げてもらうことで、習慣を作っていきます。習慣づけるということは、時間がかかるものだと思います。

成績については、去年から上がった科目、下がった科目と、それぞれ傾向があると思

ます。成績の上下と、学校や教育委員会の取組・方針等との間に、関連性はありますか。

○加賀谷学校指導室長

毎年結果を分析し、「成績が悪かった領域に力を入れてください」といったことは、継続してお願いしています。関連性は明白ではありませんが、予想としては、このお願いに対し、なんとか学校側が応えようとしているあまりに、力を入れる科目や分野のバランスがあまり良くなかったのかなという点は見受けられます。年間を通してバランスよく力をつけることを念頭に置く、ということが大切になってくると思います。

○山口市長

このことは校長会等で議題になっているのですか。

○宮崎教育長

毎月校長会があり、議題にも上がります。特に今回も学力テストの分析が出た時点で、色々と指導をしております。その前に、まずは、4月に学力テストを行った直後に独自で採点を行い、その時点で弱点や課題を確認し、次に向けて取り組んでいただいています。

○山口市長

少し力を入れれば成績が上がるし、そうでない部分は下がったりと、不思議なものですね。

○吉村委員

これも、教育の現場の難しい現状なのだと思いますね。

○山口市長

ICT 機器や学習支援員など、力を入れた部分については成績が上がってくるということなので、これからも成果に期待しながら頑張りましょう。今出た意見を踏まえ、次に生かしてもらいたいと思います。

次の議題に移ります。2点目、「千歳市いじめ防止基本方針の改正」について、事務局から説明をお願いします。

○丸岡青少年課長

(「千歳市いじめ防止基本方針の改正(資料2)」について説明。)

○山口市長

この基本方針を改正することにより、これから対応する組織や仕組みをつくるのか、あるいは既に一部で体制・仕組みができているのか。現状はどうですか。

○丸岡青少年課長

平成26年3月の基本方針を策定した際に、例えば学校のいじめ対策組織など、組織の設置等は済んでおります。今後は、改正内容に基づいたいじめ対策を進めていく形になると思います。

○加賀谷学校指導室長

いじめ防止基本方針は、学校ごとにも策定しています。今回、国が方針を一部改正したことに伴い、市の基本方針を改正しました。今後は市内各小中学校の基本方針について、各学校が改正することになります。

○山口市長

大きなポイントは、けんかやふざけ合いもいじめに含めているところですね。ご意見等がありますか。

○荒井委員

いじめは大きな問題だと捉えています。いじめは加害者や被害者のほか、傍観者、観衆といった構造となっており、現在はインターネットや SNS が発達したことにより、目に見えないところでのいじめが増えていると思います。そういったところでも、保護者に相談できない子どもがたくさんいると思いますが、とにかくどこでもいいから相談できるところ、救いになるようなところがあればいいなと思います。保護者だけでなく、保護者同士も情報を共有し、自分の子どもだけではなく、他の子どももみんなで見守り、守ってあげることができる環境になるのが、一番良いのかなと思います。

○山口市長

「あの子、いじめにあっているよ」などという通報は、奨励しているのですか。

○島倉教育部長

各学校に「いじめボックス」があります。直接担任の先生や友達、親に言えない子どもがメモに書き、廊下に置いてあるボックスに入れることができます。ボックスには鍵がかかっており、教育委員会の職員が定期的の中を確認していますが、最近ではメモが入っているケースはあまりありません。

○丸岡青少年課長

その他に、相談窓口として、各学校にスクールカウンセラーという先生以外の相談者を配置しています。

このほか、心の相談員を配置しており、遊びに行く感覚で交流することができ、そこで何か相談があった場合は、先生やスクールカウンセラーに繋げる、というような仕組みもあります。

○山口市長

ストレートに「あの子、いじめにあっているよ」とはなかなか言えないですね。「お前が言ったんだろ」ということになる、また別の問題が出てきますね。「あの子、最近悩んでるよ」というくらいなら、言えるかもしれませんね。

○宮崎教育長

いじめに関するアンケート調査を、国実施の2回と、本市が独自で実施する2回の、計

4回実施しています。その中で、「いじめを見聞きしたことがありますか」といった項目もあります。

○荒井委員

子ども同士で遊んでいるところを保護者が見ていると、「あの子、いつもと様子が違うな」など、自分の子どもだけではなく、他の子どもも一緒に見ていることで気づく部分もあるので、自分の目だけではなく、他の保護者の目というのも、とても大切だと思います。

○山口市長

最近あの子と遊ばないな、などということにより、気づく部分はあるかもしれませんね。そのような情報を共有する仕組みはあるのですか。

○島倉教育部長

担任の先生は、保護者との間で、連絡帳やお便りなどにより日常的に情報を得ることができます。

○山口市長

いじめを受けたり、受けていそうな子どもに対し、学校でしっかり見守りを行ったり、カウンセリングをしたりしているのでしょうか。

○島倉教育部長

学年全体、学校全体で、組織として対応するようになっており、全ての先生がそういった子どもに寄り添い、見守るという体制になっています。

○山口市長

話が飛びますが、現状では、荒れた学校や学級のような雰囲気はありませんか。

○宮崎教育長

従前の「荒れた」とは意味合いが多少異なるかもしれませんが、落ち着きがなく、立ち歩く子どもがいたりする、ということは、見受けられます。

いじめとは少し異なりますが、そのような状況は学習効果が下がり、勉強する環境が維持できないことから、学級崩壊の一因ともなります。このことについては、特に私の方から、そのようなことのないよう、強く話をしています。

とはいえ、子どものことです。特に小学校では、どうしても何かに引っ張られ、そういう環境を誘発しやすいと思います。このような場合は、担任の先生にだけ任せるのではなく、学校をあげ、速やかに収束を図っていくようにしています。

いじめに加え、このような環境下により授業が成立しなくなるということは、学力低下に直結しますから、絶対避けなければならないと考えています。

○山口市長

先生がいじめられているケースはありますか。

○佐々木教育長職務代理者

先生ではありませんが、親同士でいじめが行われていることはないですかね。親のいじめが、子どものいじめに発展していくというようなケースについても考えられますよね。

○山口市長

いわゆる、モンスターペアレントというような保護者はいるのでしょうか。

○佐々木教育長職務代理者

どうしても、親は自分の子どもを一番かわいがりますので、「自分の子どもは悪くない」という視点で考えてしまう人は、いるように感じます。

いじめについては、子どものメンタル面が弱くなっていることも要因の一つで、家庭環境や育て方が大きく影響していると考えます。メンタル面の育成については、やはり幼児教育から始まっているのではないかなと思います。昔と比べるとメンタル的な要因も影響しているのかなと思います。

○山口市長

たくましい子どもをつくることは重点施策となっていますが、具体的にどのような取組をしているのでしょうか。

○島倉教育部長

道徳の授業も行っていますね。

○吉村委員

結局、運動量が減少したということも、要因として挙げられると思います。道徳は本当に大事な授業の一環であると思いますが、それに加え、体を動かすことも重要で、体ごと接触することで、痛みがわかったりもします。ふざけ合いの中から、「カッとなってしまう、つい…」ということは、子ども同士ではよくあることです。昔はけんかで済んだ部分が、今そうならないのは、「痛み」をわからないからだと思います。自分がやられたら「痛い」と思うことは、できないはずなんですよ。

○山口市長

遊びの中で覚えることはたくさんありますよね。そういった「痛み」も覚えるし、そうすることで、加減も覚えますしね。

○吉村委員

体を動かすことは健康にも繋がりますよね。

○山口市長

昔は「よく学び、よく遊べ」と言われましたが、今は「よく遊べ」の部分が少ないのかもしれないですね。

○吉村委員

できれば体力をつける授業も増やしてもらいたいとも思いますね。

○宮崎教育長

ネット社会なので、人との関わりがうまくできなくなっており、そこが一番の問題だと思います。先ほどの家庭生活宣言や生活習慣改善のルール作りにも関連しますが、スマホやゲーム、インターネットの時間を抑えることによって、勉強時間だったり、人と関わるコミュニケーションの時間に転換できれば、一番良いのかなと思います。それにより、いじめももう少し減少していくと思います。

○吉村委員

ソーシャルワーカーやカウンセラーもいますが、やはり一番子どもたちを見れるのは、学校の先生です。授業をするだけでなく、生活全般で子どもたちのことを一番わかっていなくてはならないと思います。そのために、巡回など色々なことをしていると思います。

そのような部分について、ベテランの先生と若手の先生とで、対応の差があったら困るので、研修会も実施していますが、最近では若い先生が研修に対して熱心な一方、ベテランの先生が研修から逃げてしまう、ということもあります。私は、ベテランの先生こそ、昔から制度等が変わっているのだから、しっかり勉強しなくてはならないと、強く思います。

教育委員会はいじめに対して、校長会でも懸命にお話しをされてますし、年に4回のアンケートは現状を把握するための大切なきっかけだと思います。市は頑張っていると思う一方、現場にいた人間としては、やっぱり先生方が頑張る必要があると思います。

○山口市長

先生方に意識のギャップのようなものはありますか。

○加賀谷学校指導室長

学習指導と同様に、生徒指導に関する研修も実施していますが、その習得状況には差はあると考えています。同じ事象を見て、重大な案件だと捉えられる先生もいれば、ふざけ合いだと捉えてしまう先生もいます。想像力を働かせ、最悪を想定し、念のために聞き取りをするなど、具体的に指導してあげることが必要ではないかと感じてます。

○山口市長

その場合、人生経験の少ない若い先生でも大丈夫ですか。

○加賀谷学校指導室長

そういった力量というのは、必ずしも人生経験に比例するわけではないと考えています。

○吉村委員

感覚と危機管理意識ですね。危機管理意識は、いじめに限らず全てにおいて必要だと思いますし、その辺を育てるような姿勢が必要ですね。

○佐々木教育長職務代理者

重大だと認識する方と、重大ではないと認識する方がいるという話でしたが、色々と世の中で問題になっていることについては、重大だと認識しなかったがために、どんどん大きな問題へと変化した形ですよ。

○宮崎教育長

そうならないために、他人任せにせず、みんなで見守ろう、組織で取り組もう、ということをおもは常に言っています。

○山口市長

意識するかないかで、大きな差が生まれるということですね。これは重要なポイントであると思いますので、大切にしていきたいと思います。

それでは、次の議題に移ります。「小中連携・一貫教育」について、事務局から説明をお願いします。

○佐藤学校指導課長

(「小中連携・一貫教育(資料3)」について説明。)

○山口市長

これについて、何かご意見はありますか。

○橋場委員

先日、広島県呉市の和庄中学校を視察させていただきました。そこでは、小中一貫教育ということで、1つの中学校に3つの小学校がぶら下がっているという説明だったのですが、中学校の先生が小学校の授業を行うなど、先生方が互いに行き来することで、忘れていた双方の授業の感覚が徐々に思い出せたというところが良いとお話しされていました。中学校になると授業のスピードが速くなることなどから、中1ギャップという言葉が使われておりますが、このようなことが少し減ってきた感覚があるとのことでした。校長先生のお話では、どうしても小学校の先生と中学校の先生とでは部活とクラブに対する考え方に温度差があるので、それを何とかしたいということでした。とても勉強になりました。

○吉村委員

私も広島と京都の中学校を視察させていただき、勉強になりました。高校や大学と連携するようになってきています。「こんなことも教えていなかったのか」、というような意見は全国的にあるみたいですが、それを知ることにより、例えば高校ではこれくらいの知識が必要なので中学校で学ばせておこう、といった連携も生まれます。とても大切なことですよ。そこから中学校の先生は、「小学校では最低こういうことをやってから中学生にしてほしい」という思いも生まれ、上手に連携することにより、学力も伸び、更には子どもたちは生きがいを見つけることができるようになります。

千歳市においては、校区の兼ね合いもあり、大変だと思うのですが、このような連携を取り入れることにより、子どもたちと一緒に育て、そこから成果が生まれると思います。

一方、学校の先生方は、新しいことを取り入れることにより、忙しいという思いが強く

なることが想定されるので、その成果を実感できるような進め方を工夫し、先生方のやる気にも繋げていけるようにできたらと考えています。

○山口市長

確かに課題もありますが、今までやってきた学校の例を見ると、良い成果が出てきていますよね。やはり小学校1年生と中学校3年生とでは、ほとんど子どもと大人みたいなものなので、小さい子どもたちにしてみれば、お兄ちゃん、お姉ちゃんができたという感覚で、その中から学ぶものも多いでしょうね。また、年上の子については、弟や妹に接するようなものですよ。良い効果が出ているということも、私もいろいろと聞いています。

○佐々木教育長職務代理者

先ほどのいじめなどの問題に関しても、比較的解決しやすくなってくると思います。また、小学校の子どもたちを中学校の先生が把握できるメリットもあると思います。一方、千歳中学校のように多数の小学校がぶら下がっている学校だと、大変だろうという気がします。小規模校の支笏湖小学校もあるので、様々な課題はあると考えています。先生方にも、ご苦勞をかけてしまうかもしれませんね。

○荒井委員

京都で視察した学校は、中学校3学年、小学校6学年のほか、同じ施設にデイサービスや保育園も入っており、小さな子どもから高齢者までがいる施設でした。例えば小学校の授業を中学校の先生が教えていたり、中学生が保育園で本の読み聞かせをしてあげたり、福祉施設の高齢者に子どもたちが何らかの発表を披露するなど、コミュニティスクール的な活動をしつつ、円滑な運営をしているということで、とても興味深い施設でした。子どもたちも、やはり生き生きしているところがありました。私服の小学生は、同じ建物の中に制服を着た中学生がいることで、憧れの眼差しで見つめており、「早く中学生になりたいな」というような目標を持てるところも、良い点だと思いました。

○山口市長

先ほどの説明の中で、実際に開始した段階になって、教職員が足りないのではないか、という話がありましたけれども、足りないということは効率が悪いというか、新たな課題が増えるということですか。

○佐藤学校指導課長

私も京都に同行させていただいたのですが、こうした学校では、例えば中学校の音楽の先生が小学校の音楽の授業に出向くような「乗り入れ授業」という形態をとって、そこに先生の加配があると、どんどん小学校の授業へ出やすくなりますよね。逆に、加配がないと先生が欠けてしまい、中学校で授業ができなくなります。

○山口市長

それは大きな課題ですか。

○島倉教育部長

そうですね。乗り入れ授業をどんどん活発化することにより、この小中一貫という仕組みがより効果的になると思います。そのためにはマンパワーが必要になってくると思います。

○山口市長

この課題は乗り切ることができそうですか。

○宮崎教育長

北海道教育委員会が加配を付けるかどうかによると考えています。京都市は政令指定都市ですので、札幌市と同様、市で独自に教員を採用できます。私も京都へ行きましたが、京都市は必要な人員を把握し、しっかりと加配措置をしていました。

本市の場合は、道採用の教員ですので、そういう点では難しい部分があるのかもしれませんが、市独自で採用するという考え方もないわけではありませんが、そうした場合、市職員である教員と、道職員である教員が混在するということになり、異動等の運用面で難しい点が出てくると思います。

○佐々木教育長職務代理者

例えば、横並びの複数の市町村にまたがる教員を採用することはできるのですか。

○宮崎教育長

何年か前に法律が変わり、できるようになりました。例えば、大阪府豊中市では、もともと府で採用を行っていたのですが、現在は周辺の自治体と併せて採用を行っています。経過措置で、開始当初は府と一緒に採用を行っていましたが、現在は独立して採用を行っていると思います。そう考えると、例えば、石狩管内の7市町村で同様のことをやるという事は、できないわけではないです。

一方で、教員の異動については、現状として他の管内と行き来するような異動は頻繁ではなく、管内での異動が主となっていることから、あえて管内独自の採用を取り入れるメリットがあるかどうかについては、議論が必要だと思います。

○山口市長

今日、説明していただいたのは、基本方針ということで、これからいよいよ準備に入るということですね。準備に入る段階で、またいろいろなことをお知らせしていただき、こちらも勉強させていただきたいと思います。

以上をもちまして、本日の議題はすべて終了となります。最後に、事務局から連絡をお願いします。

○千葉企画部長

長時間にわたってのご議論、お疲れ様でした。本日の会議をもちまして、今年度の会議は終了となります。来年度の会議予定については、第1回目の会議を5月頃、第2回目の会議を11月頃に開催する予定です。このほか、緊急に開催する必要があると認められる案件が発生した場合は、随時開催いたしますので、よろしく願いいたします。事務局から

は以上であります。

○山口市長

以上をもちまして、平成 29 年度第 2 回総合教育会議を閉会いたします。

本日は誠にありがとうございました。